総合病院 岡山協立病院

つながるこころ、地域とともに

虹のなかま

Vol.229
2024. 1 月号

あけましておめでとうございます。
2023年は新型コロナウイルス感染症が2類から5類となりました。日常生活はやや以前にもどった感はありますが、諸物価の著しい高騰、雇用環境の悪化は私たちのくらしを直撃しています。岡山協立病院の経営もたいへん厳しい状況を余儀なくされ、リニューアルの計画も見直さざるをえません。夏には日本でも観測史上最高の気温を記録し、「地球が沸騰している」ことを実感しました。ロシアのウクライナ侵攻は終わることなく、イスラエルとガザ地区の戦闘で多くの市民が犠牲になったことも心を痛めるできごとでした。
明るいできごとが少なかった2023年ではありますが、医療生協の活動も再開されてきています。このような時代だからこそ、地域のみなさん、組合員のみなさんとの協同の力で、私たちが願っていることを一つひとつ実現していきたいものです。本年もよろしくお願い申し上げます。

総合病院 岡山協立病院　院長　髙　橋　　淳

嚥下（えんげ）機能検査について

リハビリテーション部　言語聴覚士　井 上 幸 治

食事や水分がうまく飲み込めない状態のことを嚥下障害と言います。物を飲み込むときのメカニズムは複雑な上に0.5秒以内の速さで行われます。その複雑で素早い動きを客観的に捉える方法として嚥下機能検査があります。嚥下機能検査には2種類あります。

通常　　誤嚥の状態

嚥下造影検査

1つ目は嚥下造影検査です。この検査はレントゲン室で行います。食べ物や水分にバリウムなどの造影剤を混ぜて、X線透視下で食べていただきます。「噛んで、まとめて、喉に送り込んで、飲み込む」といった過程を見ることができます。

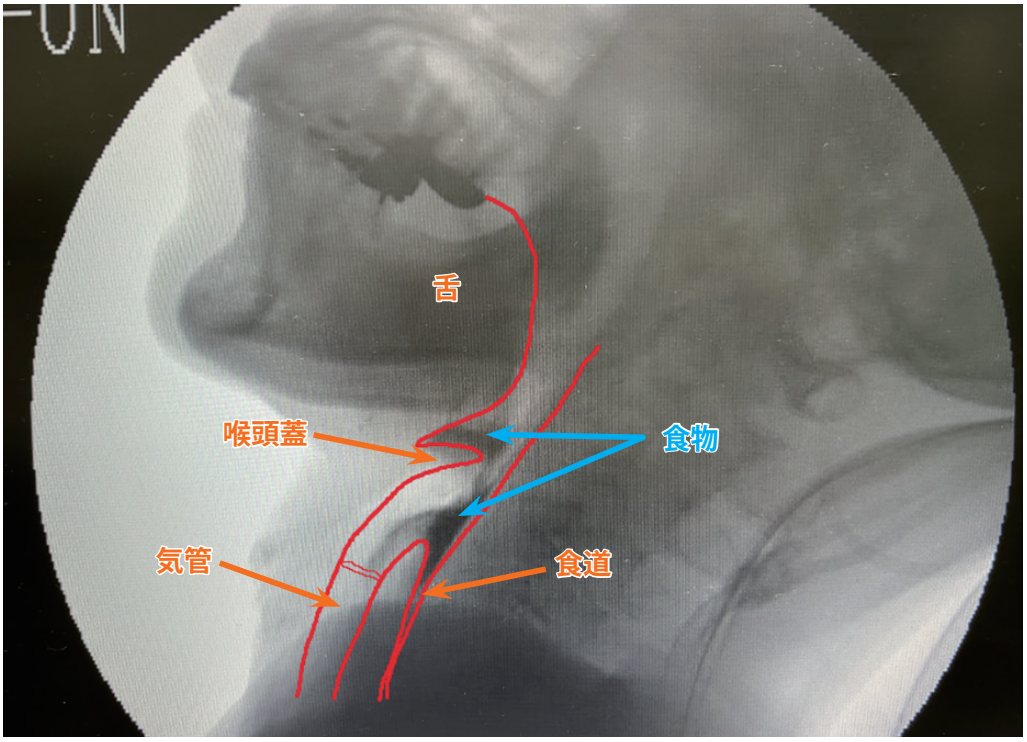

写真１　誤嚥を起こしている状態（気管に食物が流れ込んでいる）

写真２　嚥下造影検査の様子

嚥下内視鏡検査

２つ目は嚥下内視鏡検査です。鼻から細い内視鏡をのどの手前まで挿入し、食べ物や水分を飲み込んでいただきます。のどを真上から見ることができ、唾液や微量な液体の誤嚥も把握できます。病室でも実施できるためベッド上安静が必要な方でも検査が可能です。

嚥下障害の件数は多く、以上二つの検査はいずれも年間150件以上実施しています。嚥下機能検査は飲み込めないことを確認するものではなく、「どうすればうまく飲み込めるようになるのか」を考えるための客観的な情報です。検査で得られた情報と日常の様子から食事姿勢や食事の形、一口量、機能訓練などを組み立てていきます。当院リハビリテーション部には10名の言語聴覚士が在籍し、入院当初から介入を行い、早期退院のための支援を行っています。

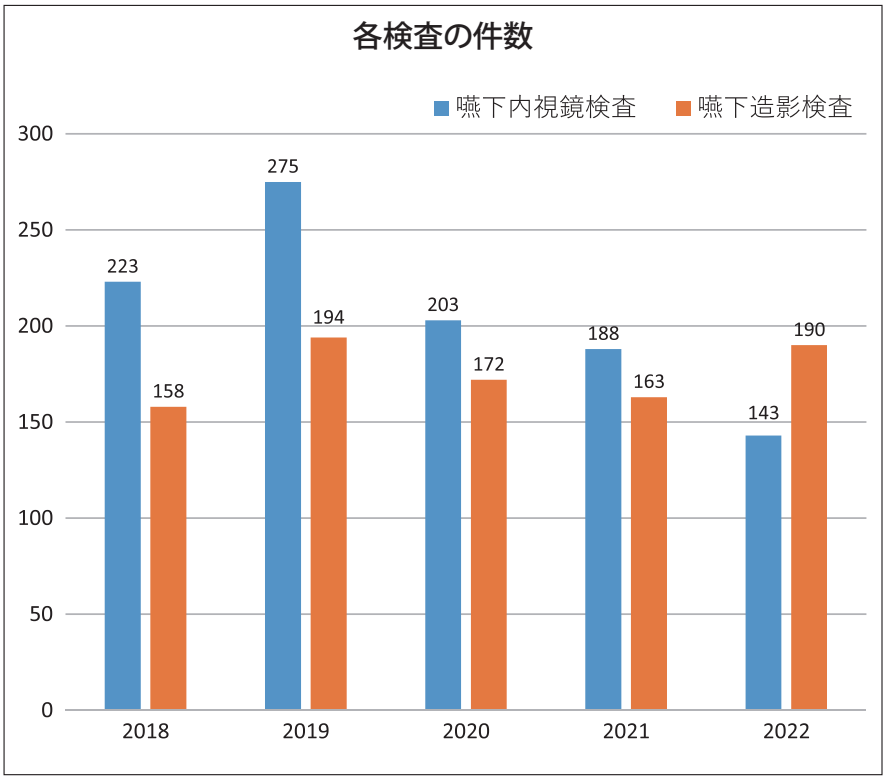

写真１の患者様は、ベッドで背もたれを起こして食べる姿勢では誤嚥が認められましたが、姿勢を完全側臥位（腕を下にして横向きに寝た状態）に変更することで誤嚥なく食べることが確認できました。その日から咳き込むことなく食事ができるようになりました。

今後も多くの方が「食べる喜び」を諦めないように支援を続けていきたいと思います。

よっしゃ抜くデー

11月26日(日)、当院が取得した旧テニスコート跡地（透析センターに隣接）をきれいにしようと、地域の組合員さんと職員で「よっしゃ抜くデー」を取り組みました。50人の参加で敷地内外の大量の雑草を抜き、バーベキューやおにぎりで盛り上がりました。

虹のなかま　アンケートのお願い

虹のなかま編集部では、皆様のご意見をお待ちしています。より見やすく、読まれる記事の紙面にしていくため、ぜひアンケートにご協力ください。
無記名、1～2分でどなたでも簡単にお答えいただけます。右のQRコードからアクセスしてください。よろしくお願いします。

【表紙の写真】　元気いっぱい当院リハビリテーション部の言語聴覚士たち。

総合病院 岡山協立病院　〒703-8511 岡山市中区赤坂本町 8-10
TEL 086-272-2121（代表）　FAX 086-271-0919